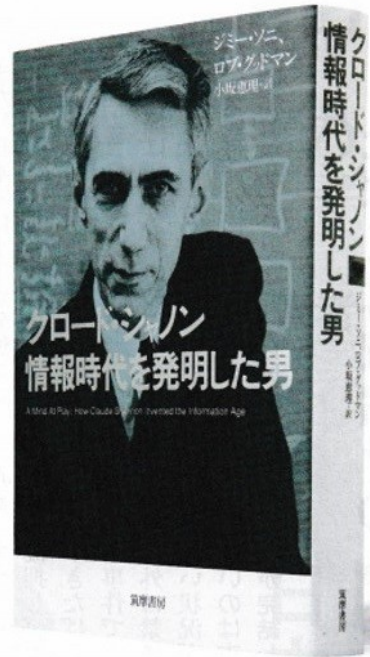


Review

ブックレビュー



天才の思考を追える ハイレベルな伝記

評者・スクウェア代表 黒須豊

本 書は、フォン・ノイマンら天才と並び称され、情報理論の父と呼ばれるクロード・シャノンの伝記である。シャノンを知らなくても、スマホやコンピュータで情報を表す単位として登場するビット (bit) という言葉を知らない人はいないだろう。最近ではGibibit (約10億ビット) が当たり前の時代になり、大量の情報がコンピュータで処理されるが、この情報量の最小単位を定義し、全ての

情報が符号化可能であり、かつ、復号 (元のデータに戻す) できることを理論的に証明したのがシャノンで、その情報理論は、人類史上に燦然と輝く革命的イノベーションを引き起こした。シャノンがいなければ、コンピュータもスマホも存在しない。また、小惑星探査機はやぶさ2の成功は情報理論に基づいた設計と運営の賜物と言っても過言ではない。今日のデジタル世界の基礎

クロード・シャノン 情報時代を 發明した男

ジミー・ソニ、ロブ・グッドマン 著
小坂恵理 訳

筑摩書房 2500円+税 / 430ページ

Profile

Jimmy Soni

編集者、ジャーナリスト。米ハフィントンポスト元編集長。スピーチライターやニュース番組のコメンテーターとしても活躍している。

Rob Goodman

元スピーチライター。英「History of Political Thought」や米「Kennedy Institute of Ethics Journal」などに論文を発表。ソニとの共著に「Rome's Last Citizen」がある。

を築いたシャノンを描く本書は、その偉業を簡易に伝えることを目的にはしていない。むしろ、シャノンの思考を細部も含めて理解、確認することができるレベルの伝記になっている。そのため、やや専門的で多少とつきにくい部分がある。それでも、ICT (情報通信技術) に携わる者はもちろん、知的好奇心の強い一般読者にもお薦めしたい。

シャノンは、米国ミシガン州の田舎町に生まれ、機械じりりの好きな少年だった。本格的な注目を集めることになったのは、MITの修士論文を発表した直後である。その修士論文は20世紀にお

いて「最も重要で、最も有名な修士論文」と言われるようになった。まさに後の情報理論の原点がそこにあった。天才に共通して見られる傾向としてシャノンも変人であったことは、本書で紹介されている。一方、2回の結婚を

し、子供との関係においても人間臭い一面を持ち合わせていたことも描かれている。また、金銭に無頓着であったと思われるものの、株式市場の仕組みやカジノのルールット必勝法について真剣に研究していた様は興味深い。AIの父と言われたミンスキは、「彼は、問題が難しく見えるほど、何か新しいものを発見するチャンスが広がったと考える人だった」とシャノンについて述懐している。本書でもシャノンの思考方法は人と違う点が繰り返し言及される。

目次 クロード・シャノン 情報時代を發明した男

I
内気な天才数学者
発明家の遺伝子 / 史上最も重要で最も有名な修士論文 / 科学者たちの夢の国 / チューリングとの出会い など

II
天才の孤独
大西洋横断通信への挑戦 / 純粋数学者たちの反感 / 「我々は、シャノン博士の助力を緊急に必要としている」 など

III
遊ぶ天才
シャノン教授 / 内部情報 / からくり好きの天国 / 奇妙な動き / 京都 / 病気の兆候 / 余波